

第5章 現状と課題

1 壺碑（つぼの石ぶみ）

（1）主な現状

- ・指定地全体及び周辺地域が特別史跡多賀城跡附寺跡に指定されており、文化財保護法により保護されてきたため、良好な景観が保たれてきた。
- ・指定地全体及び周辺地域では、古代多賀城の保存と活用を目的とした環境整備により、遺構の平面表示、説明板の設置、便益施設の整備などが行われてきた。
- ・来訪者に対しての現地案内が活発に行われているほか、歴史授業や俳句結社等によるイベントも開催されている。

（2）主な課題

- ・碑の劣化、樹木の枯損、施設の破損など、経年劣化による構成要素の損失が懸念される。
- ・古代多賀城としての環境整備が進められていく中で、来訪者に名勝おくのほそ道の風景地としての価値も享受してもらえるように調整を図る必要がある。
- ・名勝おくのほそ道の風景地に特化した広報媒体がないなど、ソフト面での活用が十分とは言えない。
- ・維持管理のマニュアルが十分に整備されていない。
- ・文化財部局と現地案内、現地でのイベント開催団体等との連携が十分には図れていない。



新緑の壺碑（つぼの石ぶみ）

(3) 壺碑(つぼの石ぶみ)の現状と課題(指定地内)

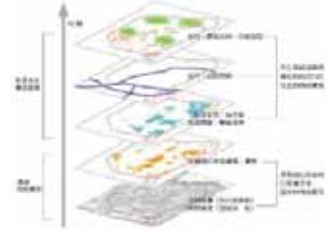
要素		現状	課題
 <p data-bbox="347 663 392 685">丘陵</p>	本質的 景観要 素	<ul style="list-style-type: none"> ・指定地である丘陵全体が特別史跡に指定されている。 ・指定地は、多賀城の南門跡周辺に位置している。 ・文化財保護法により保護されてきたため、現在もおおらかな景観が保たれている。 ・指定地は既に公有地となっている。 ・丘陵上には、露出した岩石が点在している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かつて住宅があった場所では、地形が削られ、擁壁が残存したままになっている箇所があり、景観を損ねている。
 <p data-bbox="328 1081 416 1104">多賀城碑</p>	本質的 景観要 素	<ul style="list-style-type: none"> ・多賀城碑は、多賀城を修造した藤原朝獮の業績を顕彰する、奈良時代の石碑である。 ・江戸時代以降、歌枕の「壺碑」として有名になる。 ・平成10年に重要文化財(古文書)に指定された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・碑全体は比較的保存状態が良いが、湿度が高い季節には、碑面が苔などで黒ずむことがあり、劣化が懸念される。
 <p data-bbox="288 1518 456 1563">多賀城跡 (南門付近の写真)</p>	本質的 景観要 素	<ul style="list-style-type: none"> ・古代東北の政治的・軍治的拠点となった城柵である。多賀城碑に724年に創建されたと記されており、発掘調査成果から11世紀前半頃まで存続していたと見られている。 ・名勝「壺碑(つぼの石ぶみ)」のある丘陵は、多賀城跡附寺跡として、大正11年に北半が史跡指定、昭和41年に特別史跡指定、昭和49年に南半が追加指定され、文化財保護法により保護されてきた。 ・名勝指定地内は、これまでの調査により、政庁南大路と南北大路、横断する築地塀、南門の存在が明らかになっている。 ・現状変更の取り扱いについては、特別史跡多賀城跡附寺跡保存管理計画に基づき、古代遺構の保存を大前提としている。 ・宮城県により、整備事業計画に基づき環境整備が実施されてきた。現在、地形の修復、南門の盛土保護、南北大路の平面表示が行われている。また、丘陵のほぼ中央を横断するように、南辺築地塀跡が残存している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別史跡多賀城跡附寺跡整備基本計画により環境整備が先行的に予定されている。こうした計画による古代遺構の遺構平面表示などと名勝おくのほそ道の風景地としての風致景観の調和を図る必要がある。

要素	現状	課題
 <p style="text-align: center;">覆屋</p>	<p style="text-align: center;">歌枕顕彰要素</p> <ul style="list-style-type: none"> 多賀城碑は、『おくのほそ道』当時には露出して建っていたが、水戸光圀の勅めもあり、伊達綱村によって覆屋が建築された。現在の覆屋は明治8年の建造と見られ、平成9年度に解体修理が行われた。 基礎石は布コンクリート基礎地業である。建物内部は山砂で養生し、その上をタタキ仕上げしている。 覆屋の鍵は、多賀城市教育委員会と多賀城跡調査研究所で管理しており、調査研究や清掃等の管理作業の際に解錠している。 	<ul style="list-style-type: none"> 経年劣化や周辺樹木の枝折れによる破損が懸念される。 鳥が覆屋内に入り、糞が付着することがある。
 <p style="text-align: center;">植生</p>	<p style="text-align: center;">歌枕顕彰要素</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定地内には、約200個体の樹木がある。 昭和53～57年度にかけて、宮城県により灌木の伐採・伐根、ヤマザクラ・モミジ・万葉植物・地被植物の植栽、地形修復などの環境整備が行われている。雑草については、維持管理業務として定期的除草を行っている。 平成9年に実施した多賀城碑周辺の樹木を対象とした植生調査では、江戸時代末に発芽したクロマツ、明治時代末に発芽したアカマツとスギが確認されている。 明治時代末に発芽した樹木については、大正天皇即位記念として、大正4(1925)年に移植されたものとの見解が示されている。 指定地内での定期的な経過観察は実施していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 多賀城碑周辺の樹木の中には、樹齢100年を超えるものもあり、枯損が目立ってきている。 2015年の計画策定に係る植生調査では、特にソメイヨシノの枯損が著しいことが判明している。 倒木や枝折れにより覆屋や多賀城碑が損壊する恐れがある。
 <p style="text-align: center;">「つぼのいしぐみ」道標</p>	<p style="text-align: center;">歌枕顕彰要素</p> <ul style="list-style-type: none"> 多賀城碑の北側の道路沿いに建っている。壺碑を訪れる人が、迷うことなくとり着けるように、奈良で墨製造業を営んでいた古梅園が中心となり享保14年(1729)年に現在の市川橋付近に設置されたものである。 明治9年に作成された「多賀城古址の図」には現在の位置に描かれているため、それ以前に現在の場所に移設されたと考えられる。 多賀城碑が江戸時代から歌枕「壺碑」として有名であったことを証明する資料であり、貴重である。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な観察や清掃を行っていないため、経年劣化が懸念される。 かつての政庁南大路上に位置しており、多賀城跡の復元整備に際して移設の懸念がある。
 <p style="text-align: center;">記念碑、顕彰碑</p>	<p style="text-align: center;">歌枕顕彰要素</p> <ul style="list-style-type: none"> 「御即位記念風致林」碑には、地元の学校などが大正天皇即位を記念して植樹したことが記されている。 芭蕉翁礼讃碑は、地元の俳人たちが芭蕉を追慕して建立した顕彰碑である。 これらの石碑は、当指定地の歴史および文学的価値を評価したものであり、保護、顕彰や現在の景観形成に大きな影響を与えた取組みの由緒を示したものである。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な観察や清掃を行っていない。 石碑を説明したサインがない。

要素	現状	課題
 <p>古代遺構の復元整備 (左：現況、右：完成イメージ)</p>	<p>環境整備要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特別史跡多賀城跡附寺跡第3次保存管理計画」及び「特別史跡多賀城跡附寺跡整備基本計画」に基づき、多賀城南門等の立体復元を実施する。さらなる多賀城の調査研究の進展を図るとともに、古代東北の中心であった多賀城を五感で体感してもらうことで、この貴重な文化遺産を保存し、次代に伝えていくために事業展開を図る。 ・また、地域生活と調和を図りながら、遺跡博物館的空間として整備することで、歴史文化遺産の価値の認識、地域の活性化、歴史を活かしたまちづくりに寄与させるとともに、東日本大震災からの復興の象徴とする。 ・復元年代は、多賀城政庁第Ⅱ期（天平宝字6年（762）～宝亀11年（780年））とする。 ・多賀城創建1300年にあたる平成36年（2024）に公開することを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多賀城南門と築地塀や、政庁－南門間道路の復元整備を行うことで、多賀城碑周辺の景観が大きく変化する。 ・こうした計画による古代遺構の遺構平面表示などと名勝おくのほそ道の風景地としての風致景観の調和を図る必要がある。
 <p>トイレ・駐車場</p>	<p>環境整備要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和54・55年度の環境整備によって設置された。 ・周辺にはベンチも併設されている。 ・南側には駐車スペースが確保されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経年劣化による器具の破損、給排水管の漏水などがある。
 <p>四阿</p>	<p>環境整備要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和54・55年度の環境整備によって設置された。 ・指定地を眺望できる南東側頂部にある。来訪者や地域住民等の休憩場所として広く活用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上屋は木製であり、経年劣化が懸念される。
 <p>ベンチ</p>	<p>環境整備要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和54・55年度の環境整備によって設置された。 ・トイレ脇に3基、多賀城碑東側に1基、南東側頂部付近に1基設置されている。 ・トイレ脇のベンチは休憩場所として、東側のベンチは多賀城碑、南門跡、築地塀跡を観覧できる憩いの場としての役割がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・座席部が木製であり、経年劣化が懸念される。
 <p>園路</p>	<p>環境整備要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和54・55年度の環境整備によって設置された。 ・東側斜面のアスファルト舗装部分を除き、石畳式である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂の流出などにより、石畳がぐらつくなどの劣化がある。

要素	現状	課題
 <p>標識・説明板等</p>	<p>環境整備要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定地内には、総合案内板、特別史跡内の地区名を示す標識、遺構説明板、誘導標識、野外模型等がある。 ・歌枕に関する記述は、以下のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> ①多賀城碑南側の説明板に『おくのほそ道』の事が若干説明されている。 ②指定地北側の地区名標識に「多賀城碑（壺の碑）」と併記されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経年劣化による退色や傷等が目立つ。 ・設置主体によって標識・説明板等のデザインが異なり、統一感がないため、景観を損ねている。 ・つぼのいしづみ道標、「御即位記念風致林」、「芭蕉翁礼賛碑」の説明板がない。
 <p>現地案内</p>	<p>無形の要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・史都多賀城観光ボランティアガイド等の団体が現地案内を行っている。 ・要望に応じて、多賀城市教育委員会職員が現地案内や現地での歴史授業を行っている。 ・歴なび多賀城により紹介している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・名勝おくのほそ道の風景地に特化した広報媒体がない。
 <p>「壺の碑」全国俳句大会</p>	<p>無形の要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年10月に「壺の碑」全国俳句大会が開催され、多くの俳句愛好者が参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌枕のアピールに大きく貢献しているイベントであるが、文化財部局として連携が十分に図れていない。

(4) 壺碑（つぼの石づみ）の現状と課題（周辺地域）

要素	現状	課題
 <p>特別史跡多賀城跡附寺跡</p>	<p>周辺の「本質的景観要素」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古代東北の政治的・軍治的拠点となった城柵である。多賀城碑によると724年に創建され、発掘調査の成果から11世紀前半頃まで存続していたと見られている。 ・指定地の面積は、100ha以上であり、政庁地区、南門地区、大畑地区、六月坂地区、作貫地区等では遺構の平面表示による環境整備が行われている。 ・現状変更の取り扱いと維持管理の方針については、特別史跡多賀城跡附寺跡保存管理計画で策定されている。古代多賀城に直接関連する遺跡構成要素の保護・継承・整備活用を大前提としつつ、近世以降に形成された生活文化構成要素も良好な遺跡景観の形成に大きな役割を担っているものとして、景観面での維持向上等を推進することで共存を試み、地域に密着した特別史跡多賀城跡附寺跡として持続的な保護・継承を図るものとされている。 ・整備の方針については、特別史跡多賀城跡附寺跡整備基本計画で策定される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・名勝おくのほそ道の風景地保存活用計画と特別史跡多賀城跡の保存と活用に関わる各種計画との調整が必要である。

2 興井

(1) 主な現状

- ・岩塊上には自然に発芽したマツやカエデが自生している。
- ・池の水質が悪化している。
- ・池の擁壁設置、底面のコンクリート打設、柵の設置、説明板の設置などの整備が行われてきた。
- ・江戸時代から残るまちなみの中に位置している。
- ・江戸時代から地元住民による保護活動が継続されてきており、昭和47年に市指定文化財に指定されると、地元住民と多賀城市が協働して保護にあたってきた。
- ・要望に応じて、現地案内や歴史授業等が行われている。
- ・東日本大震災以降、地元団体による維持管理が継続できない状況になった。

(2) 主な課題

- ・樹木による岩塊の損壊が懸念される。
- ・池の水質改善が必要である。
- ・池の擁壁、柵などが景観を損ねている。
- ・地元住民による維持管理を復活させることが望ましい。
- ・名勝おくのほそ道の風景地に特化した広報媒体がないなど、ソフト面での活用が十分とは言えない。
- ・岩塊を保全するための専門的知識が十分ではない。



興井から末の松山を望む（平成19年頃）

(3) 興井の現状と課題(指定地内)

要素		現状	課題
 <p>岩塊</p>	本質的 景観要 素	<ul style="list-style-type: none"> 池の中に露出した頁岩の岩塊で、岩全体に走る節理により、独特な景観となっている。 岩の表面は、部分的に苔に覆われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 節理によって分断された個々の岩塊の安定度は不明である。 今後、苔が岩塊に何らかの影響を与える可能性がある。
 <p>池</p>	本質的 景観要 素	<ul style="list-style-type: none"> 直径約20m、深さ約20~70cmの池である。 壁面と底面はコンクリートで固められている。 池水の供給源は近隣の個人宅から井戸水を引いているが、供給水量が少ないため、水の流れはほとんどない。 雨天時には、雨水が道路から浸入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 雨水と一緒に不純物も池に溜まるため、水質が汚濁し、夏場には藻が繁殖する。 現在の井戸水だけでは水量が足りず、新たな水源を確保する必要がある。
 <p>植生</p>	歌枕顕 彰要素	<ul style="list-style-type: none"> 岩塊の隙間からマツ・カエデが叢生している。 マツに対しては定期的な虫害防除のための薬剤注入を実施しているが、それ以外の植物に対する措置は行っていない。 雑草については、定期的に除草を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 植生が岩塊の形状に悪影響を与える可能性がある。
 <p>池の底面</p>	環境整 備要素	<ul style="list-style-type: none"> 池の底面は、玉石が埋め込まれたコンクリートで打設されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 底面がコンクリート打設であることと水質汚濁の因果関係について明らかにできていない。
 <p>池の護岸</p>	環境整 備要素	<ul style="list-style-type: none"> 池の壁面は、道路側は石垣、私有地に面した部分はコンクリートの擁壁となっており、統一感がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 壁面の半分は石垣であるが、半分はコンクリートの擁壁であり、景観を損ねている。 池の護岸の景観向上を図る必要がある。

要素		現状	課題
 <p>説明板</p>	環境整備要素	<ul style="list-style-type: none"> 平成11年に設置された説明板である。市指定文化財として解説する内容である。 	<ul style="list-style-type: none"> 名勝を解説する内容が含まれていないことから、内容の修正を要する。 説明板は、来訪者から遠く、文字が読みにくい状態である。 近接する末の松山との説明板のデザインに統一性がない。
 <p>地元住民による維持管理</p>	無形の要素	<ul style="list-style-type: none"> 「興井」は江戸時代、仙台藩が地元の肝入を「奥井守」に任命して保護し、明治以降も地元の住民により清掃活動が行われる等、良好な景観を維持するための活動が継続されてきた。 東日本大震災以前は、地元団体により岩塊と池を中心に清掃が行われていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地元団体による維持管理は、「奥井守」以来の伝統であり歴史的に意義があるが、東日本大震災以降は活動していない。
 <p>現地案内</p>	無形の要素	<ul style="list-style-type: none"> 要望に応じて、史都多賀城観光ボランティアガイド等の団体が現地案内を行っている。 要望に応じて、多賀城市教育委員会職員が現地案内や現地での歴史授業を行っている。 歴なび多賀城により紹介している。 	<ul style="list-style-type: none"> 名勝おくのほそ道の風景地に特化した広報媒体がない。

(4) 興井の現状と課題(周辺地域)

要素		現状	課題
 <p>柵</p>	周辺の「歌枕顕彰要素」	<ul style="list-style-type: none"> 池の周りにフェンスがめぐっている。 道路と私有地でフェンスのデザインが異なる。 フェンスは池への転落防止の役割を担っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵図には柵がめぐっている描写が多いが、現在のフェンスのデザインが景観を損ねている。 道路際と民地側でフェンスのデザインに統一感がない。
 <p>水路</p>	周辺要素	<ul style="list-style-type: none"> 池の南東側から南に向かって水路が伸びている。 周辺の道路整備等により、現在は水流が循環できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 池の水質悪化と関連している可能性がある。

要素		現状	課題
 <p>案内サイン</p>	<p>周辺要素</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・興井と末の松山を繋ぐ南北道路に、「沖の井（沖の石）」と「末の松山」の案内サインが設置されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインが統一されていない。
 <p>周辺道路</p>	<p>周辺要素</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指定地は住宅地内に位置しており、北側と西側は車道に囲まれている。 ・東側と南側は民有地となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲が道路または民有地であることから、来訪者が長時間滞在し、憩う場所がない。 ・電柱・電線が周辺地域の景観を阻害している。
 <p>末の松山間道路</p>	<p>周辺要素</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・興井と末の松山を結ぶ道路は、一般的なアスファルト舗装である。 ・道路の両脇には民家が並び、その東側はステンレス塀、西側はコンクリート塀が巡る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興井と末の松山の線的な整備がなされていないのが現状である。 ・興井方向から末の松山を見上げた場合、電柱と電線により景観が阻害されている。
 <p>駐車場とトイレ</p>	<p>周辺要素</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・普通車9台、大型バス2台分の駐車スペースを持つ駐車場である。トイレや周辺地図も併設されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興井・末の松山及び江戸時代から残る八幡の歴史あるまちなみを解説する施設がない。
 <p>JR多賀城駅からのアプローチ</p>	<p>周辺要素</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・興井は、JR仙石線多賀城駅から徒歩10分弱の距離にあり、観光の主要ルートとして期待できる。 ・多賀城市観光サイン整備計画に基づき、観光サインが設置されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅からの道路舗装については、複数の舗装材の色や模様が用いられており、統一感がない。 ・観光サインがあいまいな場所がある。

3 末の松山

(1) 主な現状

- ・推定樹齢480年の2本のクロマツは、定期的に虫害防除の薬剤を注入しているが、自然災害により枝折れなどの損壊がある。
- ・マツの根元の丘陵は、土砂が流れ出し、マツの根が一部露出している。
- ・指定地の北東隅には、宝国寺により育成された後継樹がある。
- ・要望に応じて、現地案内や歴史授業等が行われている。

(2) 主な課題

- ・マツにとって樹齢480年は枯損の恐れがある非常に危険な状態である。現存するマツの保存と後継樹育成が喫緊の課題である。
- ・土砂の流出により丘陵の景観を損ねているとともに、マツの根にも悪影響を与えている可能性がある。
- ・名勝おくのほそ道の風景地に特化した広報媒体がないなど、ソフト面での活用が十分とは言えない。
- ・マツを保全するための専門的知識が十分ではない。



墓越しに見る末の松山

(3) 末の松山の現状と課題(指定地内)

要素	現状	課題
 <p>マツ</p>	<p>本質的 景観要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推定樹齢約480年、高さ19mのクロマツ2本がそびえている。 ・これらの松は、多賀城市の保存樹木に指定されている。 ・定期的に虫害防除の薬剤注入を実施している。 ・宝国寺により松の後継樹が育成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・落雷・台風・降雪等により枝が折れている。 ・部分的に根が露出している。 ・根の一部がアスファルトで覆われている。 ・市として後継樹の育成に取り組んでいない。
 <p>丘陵</p>	<p>本質的 景観要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宝国寺の西側に位置する標高約8mの丘陵である。 ・南側交差点付近からクロマツを見上げた光景は、墓が立ち並び、松がそびえる「おくのほそ道」当時の景観を今に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂の流出により、マツの根が一部露出している。 ・土砂が露出していることから、景観を損ねている。
 <p>植生</p>	<p>環境整備要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定地東側から南側を中心に植栽されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・植生が松に悪影響を与えている可能性がある。 ・南側の道路から黒松を見上げた場合、植栽により松や丘陵が十分に見通すことができない。
 <p>柵</p>	<p>環境整備要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宝国寺との境界にフェンスが設置されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインが景観を損ねている。 ・フェンスが老朽化している。
 <p>現地案内</p>	<p>無形の要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要望に応じて、史都多賀城観光ボランティアガイド等の団体が現地案内を行っている。 ・要望に応じて、多賀城市教育委員会職員が現地案内や現地での歴史授業を行っている。 ・歴なび多賀城により紹介している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・名勝おくのほそ道の風景地に特化した広報媒体がない。
 <p>地元住民による活動</p>	<p>無形の要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宝国寺により後継樹の育成が行われている。 ・地元住民や宝国寺の檀家により清掃等の維持管理が行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元団体による維持管理は、八幡地域の歴史的意義があるものであるが、東日本大震災以降は活動できない団体等もある。

(4) 末の松山の現状と課題(周辺地域)

要素		現状	課題
 丘陵	周辺の「本質的景観要素」	<ul style="list-style-type: none"> 指定地は標高約8mの丘陵上に位置しており、北側の丘陵帯には墓地が造営されている。 「末の松山」の名が示す通り、本質的価値を有するものであり、丘陵上に立ち並ぶ墓は、『おくのほそ道』当時を彷彿とさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 宝国寺と連携した維持管理体制の構築が課題である。
 寺院(宝国寺・墓地)	周辺の「本質的景観要素」	<ul style="list-style-type: none"> 指定地の東側には、『おくのほそ道』にも記された宝国寺がある。 北側の丘陵帯には墓地が造営されている。 『おくのほそ道』にも記されている由緒ある寺院と墓地であり、周辺地域ではあるが本質的価値を構成する要素と言える。 	<ul style="list-style-type: none"> 宝国寺と連携した維持管理体制の構築が課題である。
 石碑(歌碑)	周辺の「歌枕顕彰要素」	<ul style="list-style-type: none"> 昭和32年に地元住民によって寄贈された歌碑である。 	<ul style="list-style-type: none"> 松の根に近接しており、悪影響を与えている恐れがある。 経年劣化が懸念される。
 石碑(歌碑)	周辺の「歌枕顕彰要素」	<ul style="list-style-type: none"> 平成15年に建立された歌碑である。 	<ul style="list-style-type: none"> 南側から指定地を見上げると、一番目立つ場所にある。
 説明板	周辺要素	<ul style="list-style-type: none"> 平成11年に設置された説明板である。 	<ul style="list-style-type: none"> 名勝を解説する内容が含まれていないことから、内容の修正を要する。 周辺の保存樹木の説明板、歌碑の説明板、末の松山の説明板とのデザインに統一感がない。 近接する末の松山との説明板のデザインに統一感がない。
 指定地南側	周辺要素	<ul style="list-style-type: none"> 指定地の西側から南側にかけては道となっており、アスファルト舗装されている。 南側には車が進入しないように車止めが設置されている。 東側に高いコンクリート擁壁がある。 	<ul style="list-style-type: none"> アスファルトが松の根を覆っており、悪影響を与えている可能性がある。 来訪者が立ち止まれるスペースはあるが休憩する施設はない。 周辺は、コンクリートやアスファルト製の構築物が主体となっている。

要素		現状	課題
 <p>植生</p>	<p>周辺要素</p>	<ul style="list-style-type: none"> 指定地の南側を中心に植栽されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 植生が松に悪影響を与えている可能性がある。 南側の道路から黒松を見上げた場合、植栽により松や丘陵が十分に見通すことができない。 植栽が歌碑や説明板に一部かかっているため、見えにくい状態になっている。
 <p>案内サイン</p>	<p>周辺要素</p>	<ul style="list-style-type: none"> 末の松山と興井を繋ぐ南北道路に、「沖の井（沖の石）」と「末の松山」の案内サインが設置されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 興井のデザインと統一されていない。
 <p>興井間道路</p>	<p>周辺要素</p>	<ul style="list-style-type: none"> 興井と末の松山を結ぶ道路は、一般的なアスファルト舗装である。 道路の両脇には民家が並び、その東側は暗色を基調としたフェンス、西側にはコンクリート塀が巡る。 	<ul style="list-style-type: none"> 興井と末の松山の線的な整備がなされていないのが現状である。 興井方向から末の松山を見上げた場合、電柱と電線により景観が阻害されている。
 <p>駐車場とトイレ</p>	<p>周辺要素</p>	<ul style="list-style-type: none"> 普通車9台、大型バス2台分の駐車スペースを有する駐車場である。トイレや周辺地図も併設されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 興井・末の松山及び江戸時代から残る八幡の歴史あるまちなみを解説する施設がない。
 <p>JR多賀城駅からのアプローチ</p>	<p>周辺要素</p>	<ul style="list-style-type: none"> 興井は、JR仙石線多賀城駅から徒歩10分弱の距離にあり、観光の主要ルートとして期待できる。 多賀城市観光サイン整備計画に基づき、観光サインが設置されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 駅からの道路舗装については、複数の舗装材の色や模様が用いられており、統一感がない。 誘導標識があいまいな場所がある。